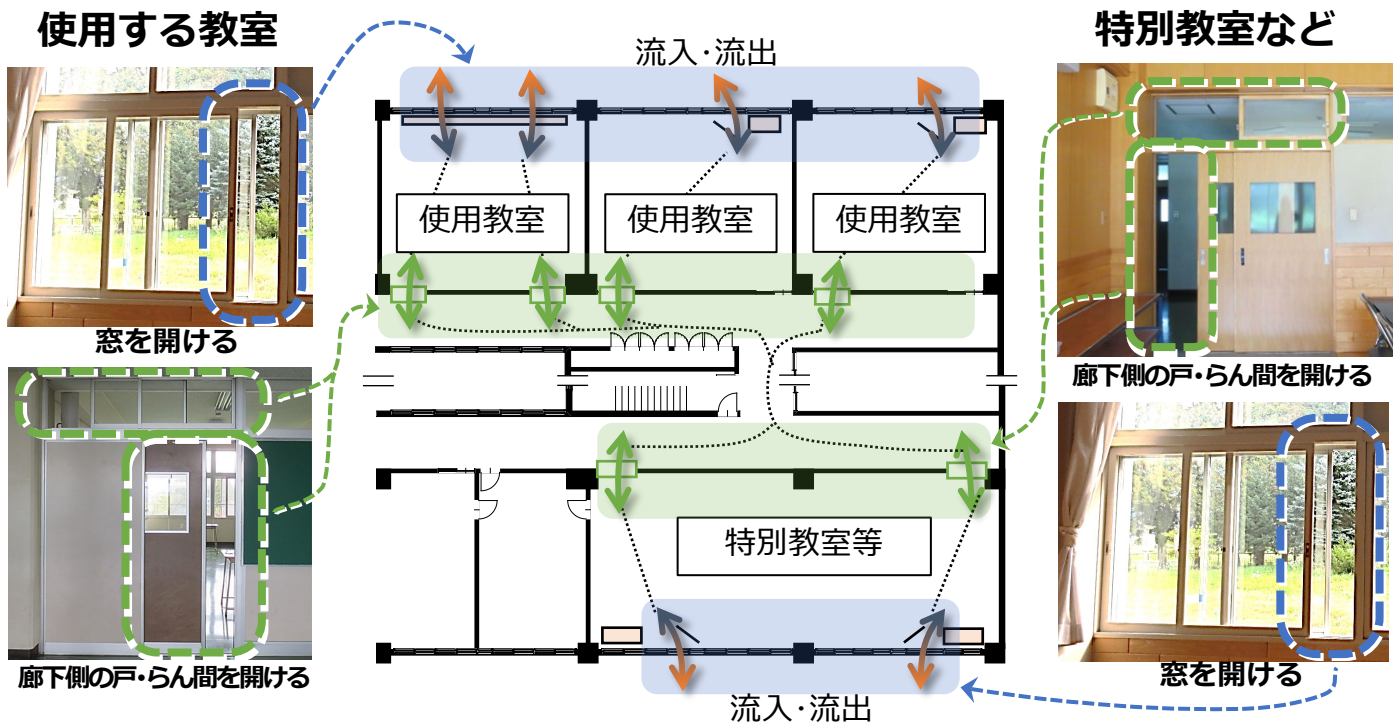
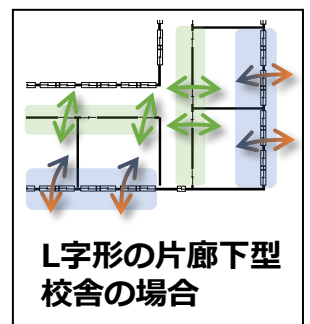


B. 換気扇がない場合

開け幅を適切に調整しながら常時2方向の窓を開け、寒くなりにくい工夫をする



- 必要換気量を確保するためには、2方向の窓を開けることが有効です。
- 使用する教室と方向が異なる教室等（特別教室等）の窓と廊下側の戸・らん間を常時開けます。開け幅は下表を参照してください。
- 教室が寒い場合は暖房を強めましょう。
- 強風の際には換気量が増えるので、開け幅を小さくできます。ただし、完全に閉じると換気不足になりますので、最低でも下表の目安の1/4程度は開けましょう。



注意 !!
この開け幅の目安は、北海道の冬季の気候を想定しています。
少人数学級や、北海道以外の地域の場合の開け幅目安は、
補足資料をごらんください。

各教室等の窓と戸・らん間の開け幅の目安

必要換気量 [m ³ /h]	窓（網戸付）		戸		らん間
	3階建て以上の1階	左以外の階	3階建ての以上1階	左以外の階	
400	15cm	30cm	閉	幅 20cm	全開
600	20cm	40cm	閉	幅 35cm	全開
800	30cm	55cm	幅 20cm	幅 65cm	全開
1,200	40cm	80cm	幅 35cm	幅100cm	全開

必要換気量

- 学校環境衛生基準（1棟あたり延べ面積が8,000m²未満の校舎）に基づく換気量は、以下の1人当たり換気量×教室の使用人数

幼稚園児・小学生（低学年）	10 m ³ /h/人
小学生（高学年）・中学生	15 m ³ /h/人
高校生・成人（教師）	20 m ³ /h/人

例) 中学生30人教室 15 m³/h/人 × 30人 + 20 m³/h/人（教師1） = 470 m³/h